

平成22年5月30日

各位

長期使用住宅部材標準化推進協議会  
平成21年度活動内容(概要)について

長期使用住宅部材標準化推進協議会  
会長 西村 達志

長期使用住宅部材標準化推進協議会は、本年5月13日の平成22年度定時総会において平成21年度の事業報告と平成22年度の事業計画について決定した。加えて、今回の定時総会は役員改選時期になっており、会長は大和ハウス工業(株)代表取締役専務執行役員西村達志氏が就任。また、副会長には継続のYKKAP(株)取締役副社長金山幸雄氏、TOTO(株)取締役常務執行役員中村均氏に加え新たに住友林業(株)取締役常務執行役員早野均氏が就任、また、監査役には新日軽(株)執行役員福永茂男氏が就任した。

以下、その概要を記載する。

1. 平成21年度の事業報告(概要)

(1) 部材等共通化基準整備事業

標準(共通)化を推進した部材の「評価・登録等の内容及び表示」「普及・啓発」等について定め、標準(共通)化部材の普及を促進することを目的とした「長期使用対応部材使用表示・普及啓発要領」を策定。また、並行してロゴマークのデザインを進め、商標登録に向けた展開を進めている。

ホームページのメンバーズページを整備し、協議会運営及び会員間の情報交換の活性化を図った。

(2) 共通化部材選定事業

色の項目の標準(共通)化について必要事項を審議し、屋根材(スレート)、内装建具(表面シート)、内装クロス(クロス)の3品目を新たに決定した。

(3) サッシ共通化事業

クレセントの寸法組合せを4種類から更なる絞り込みを検討したが、性能面並びにコスト面から4種類のまま、市場啓発を図ることとした。

戸車の寸法標準(共通)化について、無限にある組合せから下表のとおり寸法を絞り込んだ。

サッシ共通化分科会 戸車標準化寸法

項目	許容差	標準化
B タイヤ溝の R(mm) ／C レールの R(mm)	タイヤ溝のみ +0 -0.5	R2／R1.7 R3.5／R3 R5／R4
D 戸車高さ(mm)	±2	65 60 50 45 40 35 30 25 20
E ハウジング幅(mm)		16.5以下

(4) スライド丁番共通化事業

住設WGとしてスタートし、11月より「スライド丁番共通化分科会(キッチン・洗面化粧台)」として、キッチン・洗面化粧台用のスライド丁番の標準(共通)化寸法確定に向けての活動を推進。

(5) 水栓共通化事業

水栓WGとしてスタートし、9月より「水栓共通化分科会」を設置。システムキッチン水栓廻りを選定し、標準(共通)化寸法(案)を検討してきた。

(6) 内部建具共通化事業

内部建具WGとしてスタートし、共通化部材選定分科会にて分類、選定された部品①取手②丁番③戸車④錠の標準(共通)化可能なものを明確化する。

(7) 雨樋WG

雨樋の交換・修理に関する問題点を確認した。また、会員各社の採用雨樋の仕様調査を実施、標準(共通)化に向け問題点について意見を確認。塩ビ雨樋協会と具体的な取組みを開始することが決定した。

2. 平成22年度事業計画(概要)

(1) 部材等共通化基準整備事業

新たな事業企画や新分科会の設置に対応したガイドラインのあり方について検討する。

長期使用対応部材の普及・啓発事業のあり方について検討し、「共通部材使用表示事業分科会」の体制を整備する。また、「長期使用対応部材使用表示・普及啓発要領」に基づき標準(共通)化部材の普及を促進する。加えて、ホームページによる協議会の目的や活動方針に加え活動実績を普及・啓発するとともに会員各位における情報の共有化を推進する。

(2) 共通化部材選定事業

過去のアンケート調査における困った要因の内、未検討の要因を検討根拠とする標準(共通)化の部材選定をガイドラインに基づいて行う。また、「色」と「柄」についての整理を行う。

(3) サッシ共通化事業

錠の標準(共通)化に向けた活動とドアクローザー・丁番について関連団体との連携を図りながら標準(共通)化の方向の検討を行う。

(4) スライド丁番共通化事業

現在進めている標準(共通)化寸法案の精査及び妥当性の確認、確定を行い、長期使用対応部材基準書を作成する。

(5) 水栓共通化事業

システムキッチン水栓廻り三点のデッキ水栓取付穴及びその周辺条件、水栓取付カウンター仕様、シングルレバー水栓の給水・給湯の取出し寸法の各々の標準(共通)化に向けた活動を行う。

(6) 内部建具共通化事業

戸車の標準(共通)化を行う。その活動の終了を待って箱錠の標準(共通)化のスケジュールを決める予定。

(7) 標準(共通)化事業

塩ビ雨樋協会の参加を得て、引き続き雨樋の長期使用に向けてメンテナンスの「標準ガイドライン(案)」等の具体的な方針・方策決定のための活動を行う。また、本年度新たに設定された屋根材及びクロス WG 活動を行い、活動領域を広げていく。

以上